

1 基本理念

佐渡市では、「健幸さど21第2次計画」の基本理念である「元気の循環 つながりの輪 佐渡のみんなが大家族」のもと、活気あふれる地域づくりをめざしています。

本計画では、自殺総合対策大綱に掲げられている「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」をめざし、"つながり"と"人づくり"を大切にしたこころの健康づくりを推進します。孤立を防止するために「ありがとう」の言いあえる人と人とがつながる地域づくりをめざし、安心して話せる場、安心して居られる場が、家庭・学校・職場・地域全体に広がるような取り組みを進めます。

2 計画の数値目標

国は自殺総合対策大綱において、自殺対策の数値目標を「2026年までに、自殺死亡率を平成27年と比べて30%以上減少」としています。本計画の数値目標も、計画期間の最終年度までに30%以上減少をめざします。

●自殺対策を通じて達成すべき目標値

区分	2013年～2017年の5年間の平均	2021年～2025年の5年間の平均
自殺死亡率（人口10万人対）	28.3	19.8 以下
年間自殺者数	16人	11人 以下

3 計画の推進体制

自殺の背景・原因是複雑で多岐にわたっていることから、佐渡市自殺対策推進協議会において、学識経験者や医療・保健・労働・教育などの幅広い分野における関係機関・団体の参画のもとに、情報共有を図り、連携・協働体制を強化していきます。

また、佐渡市における総合的な自殺対策の推進に向け、全庁的に取り組みを進めていきます。

なお、本計画の進捗管理・評価や、改訂が必要になった際の協議は、佐渡市自殺対策推進協議会で行い、課題の解決に努めています。



いのちを守る 佐渡市自殺対策計画

■計画期間 2019年度～2025年度■

『ありがとう』でつながる島 佐渡



計画策定の背景と趣旨

新潟県では、自殺死亡率が全国を上回る深刻な事態の改善を図るために、平成22年度に「自殺予防対策検討会」を設置し、自殺対策に取り組んできました。平成28年の「自殺対策基本法」の改正を受け、改めて課題の整理と対策の検討を行い、平成29年3月に「新潟県自殺対策計画」を策定しています。

平成29年の新潟県の自殺死亡率は19.3で、全国の高い方から6位でした。その中で佐渡市の自殺死亡率は18.1で、県より低い数値となっていますが、過去10年間の平均でみると、国・県と比較して高い傾向にあります。

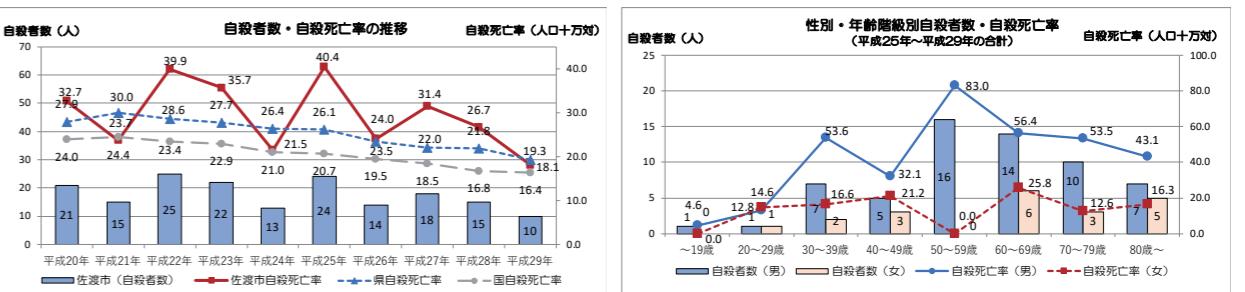
このような厳しい状況と地域の課題を踏まえ、自殺対策を総合的かつ効果的に推進するための指針として「佐渡市自殺対策計画」を策定しました。

佐渡市の自殺の現状

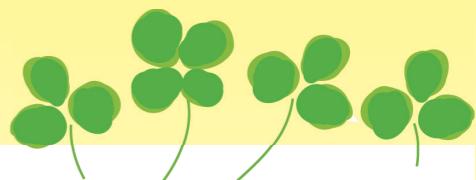
佐渡市の自殺者数は平成29年で10人、平成20年から平成29年の平均でみると17.7人となっています。

平成25～29年の合計では、男性の自殺者は女性の約3倍となっています。また、60歳以上の方が全体の約半数を占めています。

性別・年齢階級別にみると50～59歳の男性が一番多く16人となっています。男性は、特に50～69歳の自殺者数が多くなっています。女性は、60歳以上の自殺者数がわずかに多く、高齢女性の自殺死亡率が減少しない状況です。



いのちを守る自殺対策における今後の必要な取り組み



分野別の取り組み

(1) 気づき・見守り体制の推進

市民一人ひとりが自分の周りにいるかもしれない自殺を考えている人、悩みを抱えている人の存在に気づき、見守ることができる地域づくりを推進します。

①温かく見守る地域づくり

- 「助けを求めることがあたりまえ」の温かい地域づくりの推進

②民間団体等との連携の強化

- 気づき・見守り活動の強化と、自殺のリスクの早期発見・早期対応

③相談体制の充実

④相談窓口の周知

(2) ハイリスク者への支援

困難を抱えた方への相談・支援体制を強化とともに、社会的な孤立を防ぐための居場所づくりや自殺未遂者等への支援を推進します。

①関係機関との連携強化

②ハイリスク者及び家族への支援

- ハイリスク者への支援及び家族等の孤立防止

③生活・経済支援体制の充実

(3) 自殺対策を支える人材の育成及び支援

自殺の危険を示すサインに気づき、声をかけ、話を聞き、必要に応じて関係機関につなぎ、見守るゲートキーパーの役割を担う人材の養成に取り組みます。

①関係機関における人材の養成と資質の向上

②地域における人材育成

- 地域での気づき・見守り活動の中心となる人材の育成

③SOS を出せる環境づくり

- 多様性を認め合い信頼できる人間関係や地域づくり

④こころの健康づくりと病気への理解の促進

(4) ネットワークの強化

保健・医療・福祉・教育・労働・法律その他の関連する様々な領域において積極的に自殺対策に参画できる環境を整えます。

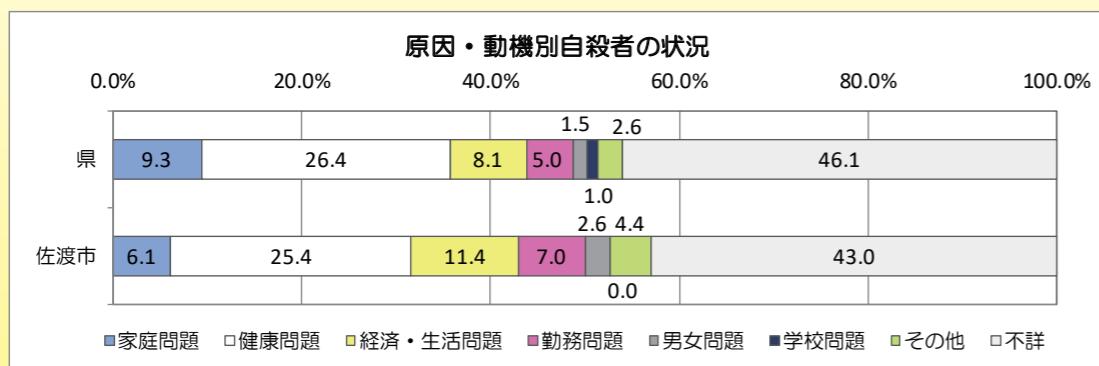
①関係機関との連携とネットワークの強化

- 共に支え合える組織づくりと包括的な自殺対策の推進

②府内・地域の資源の把握

- 既存事業を最大限に活かした仕組みづくり

佐渡市の自殺者の原因・動機を7つのカテゴリに分けてみると、「健康問題」が多くなっています。各項目の割合を比較すると「健康問題」「家庭問題」は県より低く、「経済・生活問題」「勤務問題」は県より高くなっています。



世代別の取り組み

(1) 育ち盛り世代（おおむね0～18歳）

自己肯定感・自己有用感を高める取り組みや、子どもが頼れる人のいる安心して居られる場、親が気軽に相談できる場の整備に努めます。

①SOS を発信できる教育、発信する場の提供

②いのちの大切さを学ぶ機会の提供

③家庭環境への支援

④地域全体で子育てをする

- 地域ぐるみで子育てを見守り、応援し、協力する環境づくり

⑤教育機関等との連携と環境整備

- 子どもの悩みや変化に早期対応できる組織づくり

●自殺へつながるきっかけ

問 児童・生徒が抱える悩みなどから自殺へつながるきっかけ（要因）はどのようなことがありますか（複数回答可）。



(2) 働き盛り世代（おおむね19～64歳）

時間的、精神的にも余裕がなく、社会的にも責任が大きくなるため、職場やプライベートが原因の不安や悩みが軽減できるように、こころの健康づくりを支援します。

①メンタルヘルス対策の推進

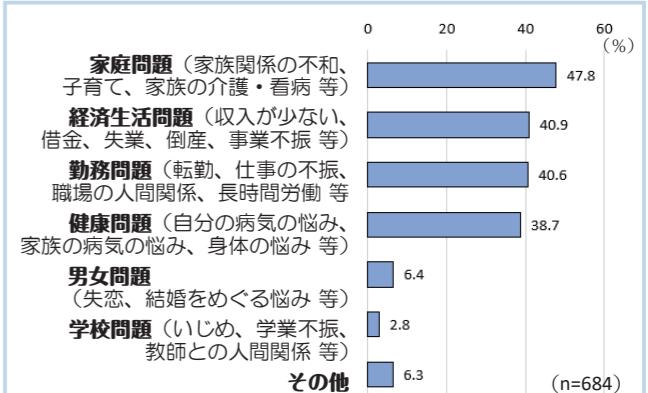
②職場環境の改善

- 関係機関との連携による、職場の環境の改善

③雇用対策と生活支援

●悩みごと（成人）

問（悩みがある方）それはどのような事がらが原因ですか（複数回答）。



(3) 活躍盛り世代（おおむね65歳以上）

高齢者の男女ともに自殺死亡率が全国平均よりも高く、高齢者特有の課題を踏まえつつ、多様な背景や価値観に対応した支援に取り組みます。

①高齢者の健康づくり対策と健康不安に対する支援

②要介護者及び介護者に対する支援

③地域のつながりの強化と孤独・孤立の予防

- 高齢者の居場所づくり活動や見守り活動の支援

●悩みごと（高齢者）

問（悩みがある方）それはどのような事がらが原因ですか（複数回答）。

